編集後記

2020 年は、2020 年 3 月から（実際は、2019 年 10 月頃から中国から広がったと言われている）日本国内に蔓延した新型コロナウイルスにより、国内のみならず世界中がこの影響を受け、さらに多くの感染者と死者をもたらし、1918－20 年に掛けて世界中にひろまった「スペイン風邪」、又は「ペストの流行」と同様に世界を恐怖に陥らせた。

このため、国内ではペスト関連の書籍が読み返されることとなった。特に A.カミュの『ペスト』や D.デュフォー『ペスト』等が有名である。

この対策として、感染予防として、交流の禁止（移動、旅行や飲食の自粛）、通勤の大幅削減（テレワークへのシフト）、そしてあらゆるイベント（スポーツ、芸術活動、その他）、そして学校（小学校から大学まで、幼稚園も）の閉鎖が行われ、多くの社会生活に支障を来たした。経済活動のみならずあらゆる分野に及んだ。

特に高齢者は免疫が弱いとの事で、注意を要した。この中にあってエッセンシャル/ワーカーに対する関心は高まり、特に医療従事者に対する感謝の念が国民的に広がった。

さらにワクチン接種の開始の遅れは国民に大きな不安を与え、結果として在宅、閉じこもりのため体調不良を訴えたり、多くの経済活動の停滞は失業やアルバイトの減少となり経済面での不利益として、生活困難な家庭、若者、高齢者を生み出し、結果として自殺を含む心身不調者を多数生み出すこととなった。さらに社会現象として、過度な自粛としての「自粛警察」とも呼ばれた強制的な社会隔離、非難が行われても来た。

この中にあって、我が学会の活動も自粛や制限を受け、2020 年 3 月以来、リアル（会合）での活動は停止し、オンラインでの開催となった。この場合も開催回数は 1－2 回しか設定できなかったが、9 月 18 日にはドイツ、ケルン在住の研究者望月浩二氏から EU の再生可能エネルギー導入状況のレクチャーを受け日本の状況との差を討議出来たことは収穫であった。総合知学会設立以来、初めての国際会議であり、学会のネット化を会員一同体験する事になった。

このような状況下において会員より 7 件の論文、研究ノートが集まったことは、何よりの喜びであり 2021 年 12 月末に漸く本論文誌が発行となった。

会員各位に感謝申し上げたい。

なお、この間 1998 年当学会発足以来今日まで永く事務局を担当された、杉山光裕様が本年 7 月 22 日ご逝去されましたこと改めてお悔やみ申し上げると共にご冥福をお祈り申し上げます。

これを機会に小松昭英会長が 90 歳でご退任になり、会長　神出瑞穂、事務局長　松田順による新体制が 8 月に発足しました。

神出　瑞穂　、松田　順

2020 年度活動報告(2020 年 4 月~2021 年 3 月)

2020 年 3 月から日本国内に蔓延した新型コロナウイルスの影響で定例のリアル研究会は計画したもののほとんど実施出来なかった。

6 月 27 日：杉山光裕事務局長を会議主催者とし株式会社インフォコアの協力のもと、WEBEX を利用したネット会議のテスト実施

9 月 18 日：WEBEX 国際ネット研究会
ドイツ、ケルン在住の研究者望月浩二氏
「EU､中でもドイツの再生可能エネルギー導入状況」
＊日本の再生可能エネルギーの状況との比較と問題点につき討議
＊時差を考慮し､16 時から 18 時の開催
＊総合知学会設立以来、初めての国際会議になった。
＊一部会員は PC 環境により対応出来ず、参加が見送られた。

以上

総合知学会　執筆要領(暫定)

2013/11/15

2016/4/16 改訂

第1条(原稿の言語)

投稿原稿は日本語または英語のいずれかで記述すること。

第2条(原稿の書式)

1. 原稿は横書きとする。
2. 和文原稿の場合、A4 版用紙 1 枚に 40 文字 36 行、行間1行を目安とする。
3. 英文原稿の場合、A4 版用紙 1 枚に 80 文字 36 行、行間 1 行を目安とする。

第3条(文字と原稿の枚数)

文字のフォントは、和文は MS 明朝(または MSP 明朝)、英文は Century を推奨し、サイズは 10.5 ポイントを原則とする。ただし、脚注等は 10 ポイントとする。

和文原稿の枚数は、第 2 条第 2 項に定められた書式で 30 枚程度(研究ノートの場合は 15 枚程度を目安とする。英文原稿は第 2 条第 3 項に定められた書式で 30 枚程度(同 15 枚程度)を目安とする。ただし、いずれも厳密に適用するものではない。

また、表題のフォントは、14 ポイント、各章は 12 ポイントとする。各章は、「太字」としてもよい。

第4条(原稿の体裁)

原稿の 1 枚目には、その内容を正しく表す原稿タイトル、著者氏名、所属をいずれも日本語と英語で併記し、また、著者連絡先住所、電話番号を記す。 さらに、要約とキーワード(ともに英語と日本語)、目次を記述する。要約は原稿全体の内容をレビューしたもので、日本語 400 字、英語 150 ワード程度とする。また、キーワードは原稿全体の内容の特徴を表す用語のことで、日本語、英語ともその数は 5～10 程度とする。

原稿の本文は 2 枚目から開始し、本文の後に、謝辞、注、付録、文献リストをこの順に記述する。

第5条(一般的注意事項)

1. 原稿は論理的に記述され、明快な文章であること。
2. 原稿本文は序論(問題提起、はじめに、など)、本論、結論(結び、結語、など)の順に記述する。本論については章、節、項の区別を明確にし、それぞれ"1"、"2.3"、"4.5.6"のように番号をつける。

(推奨例)

左側が推奨の番号付け、右側が対応する章、節、項等など。

1. ―――――――― 第1章

1.1 ―――――――― 第1章第1節
1.1.1 ―――――― 第1章第1節第1項
(1) ―――――― 細別項目の第1段
(a) ――――― 細別項目の第2段
① ―――
② ――― 細別項目の第3段
③ ―――
(b) ――――― 細別項目の第2段
(2) ――――― 細別項目の第1段
1.1.2 ―――――― 第1章第1節第2項

3. 人名は原則として英語で表記する。ただし、広く知られているもの、また印字の困難なものについてはこの限りではない。
4. 数式は別行に記し、末尾に通し番号をつける。文中で使用する場合には特殊な記号を用いず、"a/b"、"exp(a/b)"などの記法を用いる。
5. 注は当該文末に肩付き注1)をつけた上、原稿本文の後にまとめて1)から番号順に記術する。
6. 図表にはそれぞれについて"図1"、"表2"のように通し番号をつけ、また表題をつける。本文中への図表の挿入位置の指定や他文献からの引用表記は明確に行うこと。

(例)本文中
……以上の内容を素描すると、図1(出典)のようになる。……

図1を挿入

第6条(参考文献)

1. 原稿執筆に際し参考あるいは引用の対象とした文献について、本文中で参照する場合は"(著者名、発行年)"のように記す。
(例)MISの特徴は……であるという(鈴木一郎、1992)。
また、著者に言及する場合には「著者名(発行年)」のように著者名を括弧の外に出す。
(例)鈴木一郎(1992)の主張によれば……

2. 原稿本文中で参照した文献のみを、本文の後に参考文献として一括して記述する。和文、英文、いずれも引用順に文献を並べること。

3. 参考文献の詳細な記述の方法については以下を参照のこと。

(1)和雑誌

鈴木一郎、SIS の原理、MIS ジャーナル、第 1 巻, 第 1 号, 10-20 頁、1992 年 5 月号

(2)和著書-1(単著者)

鈴木一郎、SIS の原理, MIS 出版社, 1998

(3)和著書-2(編著者)

鈴木一郎、情報資源管理の機能, 中村肇編、MIS の歴史的変遷、JASMIN 出版, 123-157 頁、1998

(4)洋雑誌

Emery, J.C., The Principles of SIS, MIS Journal, Vol.1,No.1, pp.10-20. May 1990 ,

(5)洋著書-1(単著者)

Emery, J.C.The Principles of SIS, MIS Press , 1990.

(6)洋著書-2(編著者)

Emery,J.C., The Principles of SIS, Nakamura, H (ed.), Historical Process of MIS , JASMIN Press , pp.23-185. 1992

(7)洋著書-1(単著者)

http://www.jasmin.jp/abcd.htm (Feb.24, 2003)

4. その他、疑義のある場合は、通常広く認められている書式を一貫して使用すること。

参考:

MS WORD を使用する場合には、ページ設定は次のようになります。

ページ設定
文字数と行数
余白
用紙
その他
上(T)
下(B)
左(L)
右(R)
とじしろ(G)
とじしろの位置(U)
印刷の向き
縦(P)
横(S)
複数ページの印刷設定
印刷の形式(M)
標本
プレビュー
設定対象(Y)
文書全体
既定に設定(D)
OK
キャンセル

ページ設定
文字数と行数
余白
用紙
その他
用紙サイズ(Z)
A4
幅(W)
210 mm
高さ(E)
297 mm
用紙トレイ
1 ページ目(F)
2 ページ目以降(O)
プレビュー
設定対象(Y)
文書全体
印刷オプション(T)...
既定に設定(D)
OK
キャンセル

総 合 知 学 会 会 則

第1条　本会は、総合知学会（The Society for Multi-Disciplinary Knowledge）と称する。

第2条　本会は、知の根本問題の探求と、各種知の総合、すなわち　その再創造・再組織化に関する研究を進めることを目的とする。

第3条　本会は,この目的を達成するために、次の事業を行う。

1. 定例会の開催
2. 論文の審査
3. 学会誌の発行
4. 年会の開催
5. その他、本会の目的を達成するのに必要な事業

第4条　本会の会員は、本会の趣旨に賛同する者とし、A 会員（インターネット会員）及び B 会員で構成される。B 会員の入会には、会の承認を必要とする。A 会員については、別に定める。

2. 本会の事務局は、会長、幹事及び会計幹事により構成される。
3. 本会の事務局は、会長あるいは会幹事もしくは会計幹事の住所とする。

第5条　本会に会長（本会を代表し、会務を統括する）一名と、幹事一名ないし二名、会計幹事一名、監査役を任命する。任期はそれぞれ二年とする。本会に顧問を置くことができる。会の承認がある場合は、再任を妨げない。

第6条　B 会員の会費は、年額 3 千円とする。

第7条　本会則は、会の承認により変更することができる。会の承認は、意見表明者（メールでの賛否、投票、挙手等）の過半数を持って有効とする。

第8条　事業年度は、4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。

総合知学会 A 会員（インターネット会員）規約

第1条　A 会員（インターネット会員）への応募は、本会ホームページの A 会員応募票をダウンロードし、必要事項を記入して、会本部に送付する。会員は簡単な審査により、承認される。会員名簿は、会本部から個別会員にインターネット・メールを通じて送られる。

第2条　A 会員はホームページの論文投稿票をダウンロードして、必要事項を記入し、規定の形式に則った論文を作成し,投稿できる。これは本部会員の推薦で論文受理され、査読された論文は本会で発表、議論される。当該論文は当会の論文・年報誌に原著論文として掲載する。

第3条　A 会員の経費は、2000 度,2021 年度は年額 1 千円とする。但し会誌費用は別途徴収する。

第4条　A 会員が B 会員として入会した際は、当該年度の会費として A 会員会費との差額のみを徴収する。

附則：　本会の役員は、次の会員とし、平成 24 年 4 月 1 日から,2 カ年間とし、本会の所在地及び事務局の住所は、会計幹事の住所におく。

会長　　神出　瑞穂　　住所：神奈川県横浜市神奈川区三ツ沢下町 10－8
幹事（兼監査役）森田　富士夫　住所：茨城県土浦市真鍋 6－7－10
会計幹事　　松田　順　　住所：東京都三鷹市中原 4－14－7

この会の規約及び附則は、平成 20 年 10 月 1 日から適用する。

1999 年（平成 11 年）11 月 23 日制定
2000 年（平成 12 年）4 月 1 日改訂
2000 年（平成 12 年）7 月 15 日改訂
2008 年（平成 20 年）9 月 25 日改訂
2014 年（平成 26 年）4 月 12 日改訂
2021 年（令和 3 年）12 月 5 日改訂

附記）会長選出履歴を下に記す。　　記　松田　順

1. 平成 22 年 2 月 19 日の会合（三浦海岸における宿泊合宿）において、次の者が会長として選任された。
   芝尾　紘一　　東京都新宿区新小川町 3－30－606
2. 平成 24 年 4 月 14 日の会合で、メールにより投票を含む会長選により、次の者が会長として選出された。
   小松　昭英　　神奈川県横浜市港南区港南台 8－30－3
3. 平成 26 年 4 月 12 日の会合での会長選により、次の者が会長として選出された。
   小松　昭英　　神奈川県横浜市港南区港南台 8－30－3
4. 令和 3 年 7 月　19 日のインターネット・メールにて次の者が会長として選出された。
   神出　瑞穂　　神奈川県横浜市神奈川区三ツ沢下町 10－8

総合知学会会誌

ISS 1345-4889

Vol.19,2020

2021 年 11 月 20 日発行

無断転載・複製を禁ず

編集者　神出　瑞穂
〒246－0012　神奈川県横浜市神奈川区三ツ沢下町 10－8

事務局　松田　順
〒181－0005　東京都三鷹市中原 4－14－7